

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900049		
法人名	株式会社 ころ		
事業所名	グループホームころの里		
所在地	沖縄県名護市伊差川1054番地		
自己評価作成日	平成24年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成24年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=4790900049-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*直ぐ近く(歩いて1分)の所に地区公民館があり、ミニデイ等の行事・催し物を行っている。地区の皆さんとの交流そして各催し物への参画を行い、認知症の進行を遅く出来るよう配慮しています。又、直ぐ上には公園等があり、散策等にも利用しています。又、当施設は徘徊が事由来、中央が芝生でゲートボールも可能となっています。隣接する建物は有料老人ホーム(27名)で夜間は2名体制でありますので、連携が出来安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・平成23年4月に開設した施設で21室の有料老人ホームを併設している。
- ・施設は「コの字型」に囲むゆったりとした芝生の中庭があり入居者は何時でも四季が楽しめる開放的な施設である。
- ・入居者は笑顔で野菜の下拵えやレクリエーションを楽しみ、ゆったりと穏やかに過ごしている。
- ・職員は運営推進委員や地域住民・行政と連携し「地域に根ざした」施設を運営したいと模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を共有し、実践している。	H23年開設時に役職員で「地域に根ざし、入居者自身の生き方を学び、支援を共有し入居者が安らかに心豊かな暮らし」を提供する事を目的に作成した。理念はリビング・食堂に掲示し朝の申し送り時に唱和し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・区の行事へ積極的に参加し、婦人会、老人会、ボランティアの訪問もある。	自治会に加入しミニデイ・世代間交流や月1回の清掃活動に入居者職員が参加し区主催の忘年会や夜間の納涼祭を楽しんでいる。老人会・婦人会・市の民生委員が気軽に訪れ、地域住民の野菜等の差入れもあり地域交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地区の清掃など、行事に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一度の会議を開催し、情報交換し、サービス向上に活かしている。	行政担当者・家族代表・区長・民生委員に推進委員を委嘱し2か月に1回開催し、会議では外部評価の意義・利用状況等を報告し委員からは介護保険改正や地域情報を得て検討している。職員は推進委員の協力の下「地域に根ざした施設運営」に努力したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進協への参加。 ・施設内行事への参加呼びかけ。	行政主催のケアマネ会議やヘルパー会議に参加し情報交換し交流している。又 市の制度改正等の研修への参加や災害時避難施設に登録し地域住民の安全対策を市と協働で取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内全てバリアフリーで、屋外に出ることも事由にしている。	法人の拘束委員会で「拘束のリスク」を研修し、理解している。入居者や家族には入所時に説明し理解を得ている。施設内はバリアフリーで玄関やホールから直接中庭につながり開放的である。また言葉による拘束に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員への教育の実施はもとより、職員相互への聞き取り等を常に行っている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修会への参加。 ・支援が必要な利用者は、権利擁護を活用。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進協を実施し、家族代表を参加させている。 ・意見箱を設置している。	入居者や家族には入所時や面会・担当者会議・日常の会話の中から把握している。受診方法や買い物・行事参加の要望や着衣・アクセサリ等にもその都度対応している。入居者用トイレは居室の隣にあるが利用が重なることもあり居室の変更で解決した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送り、月1度の全体会議などに必ず時間を設け、提案や意見を聞く事としている。	月に1回の全体会議で職員も参加し研修計画や行事等の提案をして、業務改善・リスク検討を行い、体調不良の職員に対する処遇を考慮し就労継続を図っている。職員の業務分担を検討し営繕・農作業・調理は分担しレクは全員が担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・動線を大事に設備を配置し、個人々の職能に合わせた、シフト等、又、リーダー業務等を決め、それに見合った手当を支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・介護福祉士など、必要な講習について、シフトの調整を行い、又、費用についても、分割納付できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市、県、医師会、同業者などの行う、講習会、勉強会に積極的に従業員を参加させている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初期に本人、家族と商談し、ニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初期に本人、家族と商談し、ニーズの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要としているものの優先順位を決め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家事、共同作業を行ったり、団らん、雑談と家族同様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・生活状況、病状の報告等を行っている。 ・園内の行事の参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・自宅へ外出したり、地元のスーパー、美容室へ出かけたり、支援している。	友人や牧師の面会がある又出身区主催の行事に区長の送迎もあり参加を継続している。入居者が建設に携わったダム湖や学校また拝所・自宅を訪問し買い物は区のふれあいマーケットに行き馴染みの人や場の関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・生活状況を把握し、必要に応じ、居室の移動、テーブルに配置等を配慮し、談話コーナーを数箇所設けている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時には必要な情報を提供し、支援者と連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメントを行い、思いや意向の把握に努めている。	入居者の思いは日常的な支援の中で「美味しい・有難う」等の言葉での確認や入居者間の表情で満足感や楽しみを判断しテーブルの位置や独り歩きの付き添い・身支度等個別支援をしている。又家族等の面会時日常生活の支援の状況を報告し助言を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントを行い、生活歴、これまでのサービス利用の経過、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日課を記録し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・見直しが必要な場合は、本人、家族、関係者と話し合い、計画に反映している。	モニタリングと介護計画作成は更新時に入居者家族・職員・ケアマネが参加しサービス担当者会議で検討し作成している。入居者が「美味しく食べたい・アクセサリーで身綺麗にしたい」等の具体的な要望を取り入れ、日常生活がより楽しく過ごせるよう個別性のある介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録を個別記録に記入し、実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要に応じ、医療機関のデイケア、リハビリ等利用している。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くに地区公民館があり、公園等も隣接しているのので、その資源を大いに利用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期受診等の日時を把握し、家族が対応できない場合は付き添いを行っている。	嘱託医の月2回の訪問診療の受信や、入所後も本人、家族の希望する医療機関を受診している。基本的には家族同行の受診だが希望時には職員が代行している。家族には口頭で情報の提供や報告を受けている。嘱託医や医療機関とは日頃より連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・受診時に情報提供し、医師、看護師からの指示を仰ぎ、必要時は受診できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時に必要な情報を提供し、師長、連携室MSWと連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・受診の際にできる限り付き添ってもらい、困難な場合は、病状の報告を行っている。又、さらに推進協でも報告をしている。	「重度化や終末期」の方針は法人として掲げている。関係機関と連携を取って対応する方針である。入居者、家族には契約時に説明はしている。現在、対象者はいない為繰り返しの話し合いには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・AED等の取扱い説明を年1回行い、又訪問診療の医療機関よりの定期的な指導を受け、応急手当等は、ボランティアの看護師より常に指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防訓練等を年に二回行い、社員及び近隣住民との連携を図り、連絡網のチェックを常に行っている。	消防署の協力の下、総合訓練、自主訓練と年2回実施しているが、夜間想定はまだ実施していない。総合訓練には運営推進委員、駐在所員、近隣住民も参加している。マニュアルや連絡網は整備され、また、市指定の災害時地域住民の一時避難所を担い備品、備蓄は準備している。	入居者、職員が昼夜を通して安全に避難できるよう夜間を想定した避難訓練の実施を期待したい。

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重し、気分を害さないような言葉かけに努めている。	管理者は職員に、人生の先輩として敬った言葉かけ、利用者のこれまでの生活環境を把握し丁寧に対応する、また1日1回褒め言葉をかける、目線を合わせての会話や利用者が自己決定できるような言葉かけをするよう指導し支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々、本人の希望を聞きながら、ケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人のペースで食事や入浴等の時間を声かけしながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・常に身だしなみに気をつけ、女性はお化粧をサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、配膳、下膳などを行っている。	地域から野菜等の差し入れがあり、献立は利用者の希望を聞いて事業所で3食調理している。利用者は野菜の下ごしらえや餃子包みに参加している。台所は対面式で、調理の音や香りが漂い、職員も一緒に同じ献立を食している。希望に沿った外食や屋外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの状態へ合わせて摂取量を変えたり、食事形帯を変え食べやすい様に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後声掛けし、本人のペースで自分で出来る事はやってもらいながら、口腔内の清潔保持に努めている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限りトイレへ誘導し、個々に応じたオムツ類の使用で自立を促している。 	<p>入居時よりリハビリパンツで継続して支援しているが、殆どどの利用者が自立に近い状況である。トイレの数も多く、居室の隣のトイレで排泄できるように事前誘導や見守りに対応している。トイレ内にシャワーがあり、失敗時には洗浄、半身浴を支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の散歩、レク等による運動時間を設け、食材には工夫をこらしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一日のスケジュールの中で、入浴時間をフリーにしている。 ・本人の希望に合わせて支援している。 	<p>入浴は、シャワー浴で1日おきの同性介助で夕食後の入浴支援等希望の時間に対応している。毎日入浴する入居者や友達と一緒に入浴する入居者等様々で着替えも自分で準備している。入浴しない場合は清拭している。浴槽を希望にも対応している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は、できる限り活動してもらう。 ・休息できる環境の設定に努めている。 ・空調管理の気を配っている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬手帳の活用、薬剤師より助言、アドバイスをもらえる体制を整えている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家事、散歩、庭いじり等、本人が楽しめる事への取り組みを支援している。 ・嗜好品は望み通り愛用させている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物等の外出は対応している。遠出等は事前に計画を立て、家族に相談しながら行っている。 	<p>法人内の中庭の散歩や買い物等に出かけている。地域行事の納涼祭、豊年祭、桜見学、ドライブ等外出の機会は多く、年2回カラオケボックスに出かけ楽しんでいる。本人の意向で、奥さんの面会や自宅の仏壇にお拝に行く等個別支援計画に掲げ支援している。</p>	

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物等の外出は対応している。遠出等は 事前に計画を立て、家族に相談しながら行っている。その際にお金を使えるよう支援しています。又、パンの販売やクルトの販売についても同じようにサポートしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族の応援、支援は大切なので(状況に応じて)電話、手紙のやり取りについてサポートしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・庭にランタンや、畑には四季折々の花や果実を植え、季節感が感じられるように配慮しています。トイレ等は通常の数より多くあり、南向きで明るさと、清潔感ある配置としている。キッチン是对面でよいにおいが、いつも漂っています。	共用空間は適度な広さと明るさの食堂兼リビングと畳間がある。入居者はソファーやリクライニング椅子に移動し過ごしていた。ソファーに座った目の高さに手作りの新暦、旧暦の日捲り暦で月・日を知工夫をしている。玄関や中庭にはベンチやテラスがあり、戸外でも気軽に寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室、ソファーなどの配置、外部のボードウォークなどの場所を有効に活用し、配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の関連のものを多く取り入れ使い勝ても良いように配置するようにしています。	居室は、整理タンス、ハンガーかけ、テレビ、家族写真、使い慣れたベッド等があり、ポータブルトイレを使用しなくても安心出来るからと持ち込む等、その人らしい居室となっている。又、仏壇を持ち込み入居者の思いに沿った支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・掃除用具等の置場を配慮して、使い勝手をはかり、全ての面での使いよさを常に追求しています。		